令和7年産国内産農産物銘柄設定等申請状況 （令和6年10月31日現在）

九州農政局

産地県	申請者	申請内容	農産物の種類	品種名 （銘柄予定名称）	銘柄区分	申請する理由	申請品種の特性等	育成者権等
福岡	福岡県	名称変更	普通小麦	（ちくしW43号） ⇒ちくし春香（はるか）	選択	品種登録出願公表されたことに伴う系統名からの変更	耐倒伏性（めん用）	福岡県 （R6.8.6出願公表）
佐賀	佐賀県農業協同組合	設定	水稲うるちもみ 及び玄米	ひなたまる	選択	現在、主力品種である「ヒノヒカリ」が栽培されているが、収量性の低さや病害への弱さ、倒伏、昨今の温暖化による高温登熟障害等により、品質の低下や収量が減少しており、安定した収量・品質を確保するため、産地にあった既存品種に置き換わる新たな品種の導入を進めていく必要がある。 佐賀県で開発された「ひなたまる」は「ヒノヒカリ」と同等の食味（やわらかく、あっさりしている）でありながら、「ヒノヒカリ」と比べ2割以上の多収品種でいもち病・トビイロウンカ耐性も強く、高温登熟耐性にも優れていることから、佐賀平坦部における米の安定生産と作付面積拡大により、生産者の所得向上を図るため銘柄設定を申請するものである。今後の生産拡大予定として、令和7年産は1，780haを見込んでいる。	ヒノヒカリと比べて、 ・出穂期、成熟期も1日早い。 ・稈長は5cm短いが、倒伏耐性は同程度である。 ・穂長は同程度であり、穂数はやや少ない。 ・千粒重は重く、2割以上の多収。 ・外観品質は同等以上で、食味も良好。 ・葉いもちほ場抵抗性は”かなり強で、トビイロウンカ耐性も“やや優れる。 ・高温登熟耐性はやや強い。	佐賀県 （品種登録出願中）
	熊本製粉株式会社	設定	普通小麦	モチハルカ	選択	熊本製粉では、九州に適した新しい小麦への挑戦を目標に掲げ、2019年に、国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構との共同研究を開始。熊本県農業研究センターでの試験栽培、熊本県・福岡県での栽培実績を経て、佐賀県内圃場にてシロガネ、ミナミノカオリから作付転換を行い、令和5年産63.720t、令和6年産117.281tを収穫した。 「モチハルカ」には既存の小麦粉にはない、もち性小麦特有の性質があることから、実需者からの引き合いもあり、新たな需要創出になると見込んでいる。国産原料が注目を集める昨今、「モチハルカ」を小麦粉の添加剤的用途で推奨することにより、国産小麦の需要拡大を図りたい。市場展開を広げるため、生産増大を行うべく申請するものである。	「ミナミノカオリ」と比較して成熟期は同程度か1日遅く、収量性はやや劣る。容積重と千粒重はやや軽い。粒の外観品質は同程度である。 原粒の灰分とンパク質含量はやや高く、粉の灰分とタンパク質含量は高い。硬質の「もち性系統」である。	農研機構 （R4.3.14出願公表） ※通常利用許諾契約締結
	九州農政局長	廃止	普通大粒大麦	ニシノホシ	必須	令和4～6年産の作付け及び検査実績がなく、次年産も作付けが見込めない。	オオムギ縞委縮病抵抗性	農研機構 （H13.8.16品種登録）
熊本	熊本県経済農業協同組合連合会	設定	普通大豆及び 特定加工用大豆 （大粒及び中粒）	そらみのり	選択	「そらみのり」については、従来の大豆品種「フクユタカ」と比較すると多収が見込める有望品種として令和5年度より熊本県内で試験栽培を実施し、多収で栽培しやすい品種として生産者の評価を得てきたところである。実需者からは、「フクユタカ」と変わらない加工適正の評価を得ており、豆腐用、納豆用などの用途での使用を予定している。特にへその色が「黄色」の特性から納豆用での幅広い使用が期待されている。 また、銘柄設定し他の品種と区分した生産流通とすることで、生産面では生産農家の意識が高まり更なる収量・品質向上につながるとともに熊本県産大豆の需要拡大にもつながると考えられる。	「フクユタカ」と比較すると莢付きが良く、「フクユタカ」より3割程度多収傾向である。「フクユタカ」よりも莢は裂け難く、葉焼病に対しても抵抗性がある。 へその色は、「そらみのり」は「黄色」であり、たんぱく質含有率、豆乳抽出率などは「フクユタカ」と同等である。	農研機構 （R5.8.10出願公表） ※通常利用許諾契約締結予定
	株式会社 タナカ農産	設定	水稲うるちもみ 及び玄米	にじのきらめき	選択	気候変動の影響で気温が上昇し、県内で多く栽培されている「ヒノヒカリ」や「森のくまさん」を中心とした普通期のお米が、毎年のように乳白米や胴割粒等の高温障害が発生し、数量減少や等級低下の影響を受けています。そこで、それらの作付転換として、高温耐性があり収量性に優れ、且つ短稈で耐倒伏性に優れて、多くの病気に強い耐性を持っている「にじのきらめき」を作付けすることで、ヒノヒカリと比較して収量増加と等級向上が見込め、生産者の収益向上に繋がります。 令和5年と6年に熊本県八代地域で「にじのきらめき」を作付けした生産者は、それまでのヒノヒカリ等と比較して、収量が反当たり2～3俵増加し、農産物検査結果も向上したと評価していました。実需者からも、歩留まりが良く且つ食味も良いので非常に使い易いとの評価を受けています。 種籾の問い合わせも増えており、熊本県内の生産者に対して令和6年は4,000kgの販売実績があり、令和7年も現時点で6,000kg以上販売予定で、面積拡大が見込まれています。	高温耐性と収量性に優れた中生品種。大粒で整粒率が高く、白未熟粒の発生率が少なく玄米品質は優れる。短稈で耐倒伏性に優れ、イネ縞葉枯病やいもち病など、多くの病気に強い耐性を持っています。	農研機構 （R4.6.28品種登録） ※通常利用許諾契約締結
	九州農政局長	廃止	水稲うるちもみ 及び玄米	つやきらり	選択	一部の地域において作付けされているが、令和5年産から検査実績がなく、今後も検査の予定がない。	多収性	農研機構 （R5.4.6品種登録）

産地県	申請者	申請内容	農産物の種類	品種名 （銘柄予定名称）	銘柄区分	申請する理由	申請品種の特性等	育成者権等
大分	九州農政局長	廃止	水稲うるちもみ 及び玄米	あきたこまち	選択	品種転換が進んだことにより、現在は自家消費のみの作付けとなっている。 そのため、令和5年産から検査実績がなく、今後も検査請求の可能性がない。	いもち病抵抗性	秋田県 （R2.9.16出願公表）
			普通小麦	農林61号（のうりん ごう）	必須	現在、自家消費及び産直販売等の作付けがあるが、民間流通麦としての出荷を目的とした作付けは無い状況。	耐病性	
鹿児島	鹿児島県	設定	水稲うるちもみ 及び玄米	あきの舞（まい）	選択	鹿児島県の普通期栽培地帯では，「ヒノヒカリ」及び「あきほなみ」等が栽培されているが、現状として，「ヒノヒカリ」1品種に偏っているため、適期栽培や収穫期の分散が困難で品質・収量の不安定要因となっており、気象災害リスクも高くなっている。 また、「ヒノヒカリ」は高温登熟性に劣り，近年の温暖化により品質低下が問題となっている。 これらに対応するため、鹿児島県は，「ヒノヒカリ」並の良食味で、高温登熟性に優れ、玄米品質が良く、「ヒノヒカリ」に比べていもち病に強く、収量性は「ヒノヒカリ」より高い特性を有し、さらに，「ヒノヒカリ」に比べて成熟期は6日遅く、「あきほなみ」に比べて10日早いため、作期分散を図ることが可能である「あきの舞」を育成した。令和4年度に本県奨励品種に選定しており、今後、生産拡大が見込まれることから、「あきの舞」を産地品種銘柄として申請する（令和11年度普及見込面積2,000ha）。	・ 早晩は「普通期栽培用早生～中生」 ・ 玄米外観品質は「ヒノヒカリ」より優れる。 ・ 玄米の千粒重は「ヒノヒカリ」よりやや重く，収量性は「ヒノヒカリ」より高い。 ・ いもち病圃場抵抗性は葉いもち“強”，穂いもち“中”である。	鹿児島県 （R5.7.19出願公表）

※育成者権等欄の「農研機構」は、「国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構」の通称